

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 82

学校名・団体名	東大阪市立柏田小学校
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	全学級担任による研究授業 — 新任からベテランまで —

〈活動・研究の意義、目的〉

1 本校の現状と取り組みの概要

本校は「1人ひとりの子どもに、豊かな人間性と確かな学力、体力を」を教育目標に掲げ、教育実践を重ねている。東大阪市の西南部に位置し、中小の町工場が多く立ち並ぶ地域である。

本校の子どもたちに、学習面で自己肯定感を与えるためには、まず教員の授業力向上が急務であると考えた。幸い本年度の教員チームは、新任からベテランまで教師として熱い情熱と向上心を持つ人材がそろった。ここで「全教員による研究授業」を計画し、また指導助言には「授業の達人」と言われた助言者を招へいし、実りのある研究討議を狙って実践を開始した。

その結果、教員たちには「研究授業をやってよかった」という達成感が蔓延した。

さらに、師範授業として本校の児童を対象にして、近畿大学の木村隆良名誉教授による理科の極低温の実験授業や、山本章先生の詩の朗読の授業などを参観させてもらえる機会を得ることができ、本校教員は授業の達人の持つ匠の技を目の当たりにすることが出来た。

この実践は、必ずや次年度以降の子ども達の学力向上に結び付くものと、確信している。



-230℃の液体窒素を注ぐ木村教授（極低温の実験）



山本先生による師範授業（詩の朗読）

2 実践内容

- (1) 実践者 本校全学級担任12名（普通学級9クラス、支援学級3クラス）
- (2) ねらい 教員の授業力向上と、児童の学力向上
- (3) 指導助言講師 ・浦嶋 敏之（関西外大教授） ・山本 章（元、大阪狭山市教委）
・植田 忠雄（元本市立小学校長） ・東大阪市教育委員会、指導主事
・木村 隆良（近畿大学、名誉教授）

- (4) 活動時期および内容（※1, 3, 6年生は2クラス、2, 4, 5年生は1クラス）

- 4月 本研究のねらいを校長より教職員に周知徹底
- 5月 授業力向上のための教職員研修①（講師：山本先生）②（講師：浦嶋教授）
- 6月 支援（病弱児）学級公開授業（授業者：亀田教諭、指導助言：植田元校長）
4年1組研究授業（授業者：仲道指導教諭、指導助言：山本先生、国語「走れ」）
6年1組研究授業（授業者：吉村教諭、指導助言：市教委、算数「分数÷分数」）
6年2組研究授業（授業者：中山教諭、指導助言：浦嶋教授、総合「キクさんの沖縄戦」）
支援（知的）学級公開授業（授業者：景山教諭、指導助言：植田元校長）
- 7月 教職員研修③「1学期の総括」

- 8月 教職員研修④「子ども理解」
先進校視察、日本算数数学教育学会（東京大会）参加



4年生国語「走れ」の授業



2年生国語「キクさんの沖縄戦」の授業

- 10月 1年1組研究授業（授業者：瀬田教諭、指導助言：山本先生、国語「サラダで元気」）
2年1組研究授業（授業者：松本教諭、指導助言：浦嶋教授、総合「特別支援教育」）
- 11月 学習発表会「柏田っ子ワールド」開催、保護者対象に授業アンケートを実施
4年1組公開授業（授業者：仲道指導教諭、指導助言：市教委、国語「本は友達」）
5年1組公開授業（授業者：越川教諭、指導助言：市教委、総合「コリアタウンへようこそ」）
- 12月 6年1組研究授業（授業者：吉村教諭、指導助言：市教委、算数「場合の数」）
全学級公開授業（授業者：柏田小教員、参観者：柏田中、長瀬西小、長瀬西幼の教職員）
支援（自閉症情緒障害）学級公開授業（授業者：森田講師、指導助言：植田元校長）
学校教育自己診断アンケート実施



1年生国語「サラダで元気」の授業



2年生総合「特別支援教育」の授業

- 1月 師範授業（授業者：木村名誉教授、理科「極低温の実験、トマトの電磁性」）
6年1組公開授業（授業者：吉村教諭、指導助言：市教委、英語「英語で夢を語る」）
1年2組公開授業（授業者：韓教諭、指導助言：市教委、算数「百をこえる数」）
3年1組公開授業（授業者：山口首席、指導助言：市教委、総合「夢トライ科」）
1年1，2組と支援学級との交流公開授業、道徳「みんなとちがってもいいじゃない」
- 2月 民族学級1年生公開授業（授業者：金ソンセンニム、指導助言：市教委、）
5年1組公開授業（授業者：伏見教諭、指導助言：山本先生、理科「電磁石」）
師範授業（授業者：山本先生、国語「詩の朗読」）
3年2組研究授業（授業者：中本講師、指導助言：浦嶋教授、総合「心の答あわせ」）
教職員研修⑤「取り組みの総括」

3 研究実践の効果測定

大阪府では、毎年全児童の保護者を対象に授業アンケートを実施している。このアンケート集計で、昨年度の本校の教員の平均は3.53から、今年は3.56と微増ではあるが、向上が認められた。特に、ベテラン教員が高い数値を出し、若手教員のよき手本となってくれた。

また東大阪市で実施しているアンケート調査において、「学校での学力向上の取り組みはよいと思いますか」という質問項目で、なんと91.4%の保護者が肯定的な回答を示してくれた。

さらに「あなたはやりがいを持って教育活動を行えていますか」の項目で、89.5%の教員が強い肯定回答を示してくれた。特に12月に実施した全学級の公開授業では、同じ中学校区の教職員に参観してもらい、多くの叱咤激励と賞賛の声をいただいたことが、多くの教職員にとって「やりがい」を感じられる結果につながったと思う。

今回の実践では、ベテラン教員は若手に良い手本を見せ、また若手も意欲を持って授業研究に取り組む素晴らしい光景を見ることができた。この「チーム柏田小」の教職員集団を誇りに感じながら、このような機会を与えていただいた「公益財団法人ちゅうでん教育振興財団」の関係各位に深く深く感謝いたします。本当にありがとうございました。